

新潟市美術館協力会会報

No. 23  
2006. 6. 10

発行者 新潟市美術館協力会  
ISSN 1345-2479



全所蔵作家展Ⅰ－絵画編－  
テープカット ('05. 12. 13)



現代中国美術展  
テープカット ('06. 4. 7)



全所蔵作家展Ⅰ－絵画編－  
ふれあいパーティー ('05. 12. 13)



北上あつ子さんへの感謝の会  
割烹 岡田にて ('06. 5. 16)



## 北上さんありがとう！

協力会会長 河端昭二

協力会発足以来今まで、美術館のスタッフとして、公私にわたり、会の運営に尽力された北上あつ子さんが、このたび退職されることになりました。協力会の現在が美術館のご支援のたまものであることは勿論ですが、個人として、北上さんの存在は誠に大きなものがあったと思います。彼女の退職は、美術館にとっても、大きな損失であり、今後どのような対応がなされるのか危惧されるところです。聞くところによれば、必ずしも円満な退職ではなかったということで、残念でなりません。彼女が送別会の挨拶で朗読された谷川俊太郎の詩を掲げておきます。

### 「黄金の魚」

大きな魚は大きな口で中くらいの魚を食べ  
中くらいの魚は小さな魚を食べ  
小さな魚はもっと小さな魚を食べ  
命は命を生け贋として光り輝く  
幸せは不幸せをやしないとして花ひらく  
どんな幸せの深い海にも  
一粒の涙が溶けていないということは無い」

赴任されて、その仕事に天職を見いだされたのはいつの頃であったのか、まだかではありませんが、私が知る彼女は、知識、経験、技能、ともに備わった学芸員として活躍されておられました。協力会の運営には正面から取り組まれて、計画の立案から実施まで、あらゆる面で懇切なサポートをいただいたことは、会の足跡を振り返ってみると、そのほとんどが彼女の功績に帰せられるものと思っています。

文化の醸成は一朝一夕に成るものではありませんが、未来をみつめる優れた着眼点から推進された、「子供美術館」はその人柄をしのばせるとともに、美術文化の育成に向けた彼女の情熱を証するものであると思います。

終わりに私たちの願いを記しておきます。

「市長さん、美術館においてになってください」  
美術館スタッフと膝を交えて語り合ってほしいのです。美術館と、その諸活動は新潟市民の大切な財産であり、それはやがて、未来の子供たちへの「豊かな贈りもの」として結実するはずです。

なお、北上さんは退職後も事務局にご参加くださいます。

ふれあいパーティーや、研修旅行など様々な行事の中に、いつも彼女の人が引きつける笑顔がありました。感謝と敬意をもってお礼を申し上げます。

はじめ教師を志された北上さんは、美術館に



## さようなら こんにちは

北上 あつ子

今年も春がめぐってきました。私はこの3月末日をもって新潟市美術館と別れを告げました。17年間の学芸員生活の中で、協力会の方々と出会い、ともに考え、活動できたことは、私にとって誇りであり、幸せなことでした。ほんとうにありがとうございました。

美術館に赴任して初めて、その仕事が多岐にわたることを知り、驚きの連続であったことが昨日のようです。そんなある日、実習講座での「美術館で制作するようになって展覧会で絵や彫刻の見方が変わってきた」という受講生の声には、勇気づけられました。美術館は、市民と直接接する窓口でもあるのです。美術館職員と市民である講座受講生との良好な交流があっ

て、10年前、協力会が発足しました。親睦会、研修会、そしてボランティア。なかでも、解説部は会員から常設展示室の作品を自分の言葉で語りたいと始まった活動です。毎月のふれあいガイドでは、会員の人柄がしのばれる語り口に思わず引き込まれます。もはや、協力会の活動は新潟市美術館では欠かせない存在となっています。決して声高ではありませんが、300名からの市民の方々が、静かにしかし力強く新潟市美術館を支援し続けてくださっているのです。

改めましてこんにちは。4月からは、新会員として協力会に参加しています。事務局の一員として活動に加わっていきたいと思います。これからも、どうぞよろしくお願ひいたします。

### 北上さんへ 贈ることば

事務局員より

- 協力会10周年記念事業の全面的なご支援、有難うございました。あの時のご指導をもとに、動ける協力会の活動を目指して、これからも頑張りたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひいたします。
- 美術館にとって、とても大切な学芸員でいらっしゃったのに、ご退職を耳にした時は、自分自身もショックでした。これからは、協力会の一員になられましたので、一層のご活躍をご指導よろしくお願ひいたします。
- 私が初めて協力会の事務局に参加した時、一回で名前を呼んでいただき感激しました。素晴

らしい才能ですよね。これからもよろしくお願ひいたします。

● 18年位前、実習室の事を親切に教えてくださいました。今まで好きな事を続ける事が出来ました。本当に有難うございました。

● 北上さん、協力会の10年間ご苦労様でした。おかげ様で協力会が充実し、いつも和やかな笑いの中で作業が出来、また沢山の友達が出来ました。有難うございました。

● 突然、退職という言葉を聞きびっくりしました。でも、協力会員として、私達と一緒に仕事を続けてくださるとのこと、安心しました。

## —熱気と興奮の中で—

協力会恒例の新年会は、1月21日㈯6時から東堀通のホテル金寿の10階で行われました。

この日は気温が低く、夕方から雪となり寒い夜でしたが、会場内は熱気と興奮のるつぼと化し、あっという間の2時間でした。

いつも通りの挨拶や乾杯の後、待ちに待っていた福引とオークション。

オークションと福引が始まると、今まで和やかに話し合っていたのですが、今年はどんな物が当たるのかなと興味津々…。

見事に希望の品物を射止めた人の喜びの声。一方、思い通りにならなかった人の悔しさ。



河端代表の挨拶

福引はカレンダーや絵ハガキセット、CDなど日頃、ほしいなあと思っていたものも用意されており、みな満足して帰途についたと思います。

今年の参加者は37名で、昨年より少なかつたようですが、毎年1月の第3土曜日の夜に計画しております。

大勢のみな様のご参加をお待ちしています。

### 協力会ワークショップ

#### 冬の日本海を造形する

3月4日㈯、冬の日本海から流れ着いた手のひらサイズの板切れや、流木を使い“冬の日本海を造形する”と題して、流木に描くアートのワークショップが9名の参加で開かれました。画家小林裕児先生をお迎えして午前11時から約5時間にも及ぶ作業でしたが、先生の丁寧で細やかな指導のもとアクリル、テンペラ、水彩、油彩などを使用して思い思いの色・形に作りあげ途中お互いの作品を鑑賞しながら、自分だけの流木アートを制作しました。

**小林裕児プロフィール** 1948年東京生まれ。大胆かつプリミティブな手法で創作活動を展開し、音楽家や舞踏家とのコラボレーションでも有名。『記憶』は新潟市美術館所蔵 1993年作。



### 上野で美術鑑賞

## 「ロダンとカリエール展」を見に行こう

日 程 3月18日(土)

8:00 新潟駅集合

8:23 上越新幹線新潟駅出発

11:00 上野駅公園口集合

国立西洋美術館《ロダンとカリエール》

13:00 昼食 美術館内「カフェ睡蓮」にて  
昼食後解散

13:50 都美術館 "HITO HITO TEN" 人人展 自由鑑賞

春未だ浅い新潟を北上学芸員と共に5人の会員で出発し、上野駅で1名合流、6人の旅となりました。市美術館所蔵のカリエールの作品30点の中から《もの思いにふける若い娘》が出品され、大きな壁面に他の2点と共に並べて展示され市美術館で観るのとは別のスケールの

## これからもよろしく

5月16日に協力会主催の「北上あつ子さんへの感謝の会」が割烹岡田で行われました。

平日のお昼でしたが、28名もの参加者があり、とても賑やかな食事会となりました。

みんなで行った日帰り旅行や一泊旅行などの思い出話に、あっという間の2時間でした。

会の最後に「今日の日はさようなら」を歌ってから、みんなの手で作ったアーチを通ってもらって、この会をお開きにしました。

これからは、北上さんは協力会の一員として、私達と一緒に、事務局の総務の仕事をしてくださることになりました。

北上さん、お体を大切になさって、これからもよろしくご指導下さい。



ウジェーヌ・カリエール  
「もの思いにふける若い娘」  
(1901-02)

大きさを感じました。5つのセクションで二人が彫刻と絵画という違いを越えて共通する芸術観で深く結びつき、交流を深めていった過程が観られ、カリエールのモノクロームの絵画がいつしか彫刻を観ている様な錯覚を覚える事もあり、物の見方が一つ増えた気分になりました。

都美術館の「人人展」では、市美術館に所蔵のある佐藤多持の追悼陳列の作品を自由鑑賞し、帰路に着きました。学芸員の北上さんありがとうございました。



## 会員のひろば

### 奈良の古寺を巡って思うこと

広川ミ工

昨秋、会津八一ゆかりの奈良の寺々を巡りました。秋篠寺、法華寺、海龍王寺、般若寺、東大寺、法隆寺、法輪寺、新薬師寺、唐招提寺、薬師寺などです。どの寺でも長老や前管長の方が懇切な解説をされ、東大寺では大仏の基壇の上を一廻りし、今更ながら八一の歌の力と徳を思いました。

法隆寺の百濟観音、薬師寺の吉祥天、平山画伯が構想以来30年をかけ完成された大壁画などを拝見し感激一入でした。

帰ってから高校生の頃読んだ、矢代幸雄の名著「日本美術の特質」第二版を図書館から借りて熟読。(この本は、新潟市立図書館、県立長岡図書館、市美術館いずれにもなく柏崎市立図書館に個人寄贈のが一冊あるのみ)

わが国の文化、芸術がいかに中国、就中、唐・宋代のそれの影響を受けたか、また、各時代のわれわれの先人たちが、それを学びつつ、苦闘して独自の文化を創って来たかが、系統的に理解できました。

### 会員の皆さんからの原稿募集

- ①協力会の活動に対してのご意見、ご感想など。
- ②市美術館に対してのご意見、ご感想など。
- ③美術に関する話題など。
- ④市美術館並びに協力会に対しての質問など。

①②③は400字~600字程度。

郵便番号、住所、氏名、会員番号をお書きのうえ  
下記までお送りください。

宛名 〒951-8556 新潟市西大堀町5191番地9

新潟市美術館協力会事務局会報係まで

実物に即して解説を聞き、更に本などで復習することにより、芸術から受ける感銘が一層深まると痛感しました。

—投稿有難うございました—

### 平成17年度 後期協力会活動の記録

年・月・日	曜日	活動 内容
H17.12. 1	木	会報「ななかまど」No.22 発行
10	土	事務局開設
10	土	解説部研修
13	火	開館20周年記念 「新潟市美術館全所蔵作家展! -絵画編-」 オープニングセレモニー・ふれあいパーティー
17	土	研修講座 中島千波スケッチライブ
18	日	解説部「ふれあい美術館ガイド」
25	日	ミュージアムコンサート 演奏小川泰(ピアノ)
7・14・21	水	資料整理部 新聞記事スクラップ他
H18. 1. 14	土	事務局開設
14	土	解説部研修
21	土	新年会「ホテル金寿」10階
22	日	解説部「ふれあい美術館ガイド」
11・18・25	水	資料整理部 新聞記事スクラップ他
2. 4・17	土・金	解説部 ふれあいトーク
19	日	解説部「ふれあい美術館ガイド」
25	土	事務局開設
1・8・15・22	水	資料整理部 新聞記事スクラップ他
3. 4	土	研修講座 小林裕児 「冬の日本海を造形する」流木アート
11	土	解説部研修
14・15	火・水	広報支援部 ポスター・チラシの区分け
18	土	「ロダンとカリエール展」を見に行こう 国立西洋美術館・東京都美術館
19	日	事務局開設
19	日	解説部「ふれあい美術館ガイド」
25	土	事務局開設
1・8・15・22・29	水	資料整理部 新聞記事スクラップ他

### 編集後記

年度末の突然の美術館の人事異動のため、会報の発行が1か月遅れてしましましたこと、お詫びいたします。

協力会は11年目に入り、みな様方のご協力で少しずつではありますが、足跡を残せるようになって来たと思います。が、まだまだいろいろな課題が残っております。

どうぞこれからも、協力会継続・発展のために、みな様のご支援よろしくお願ひいたします。

編集子